

研究の概要

1 研究主題

造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう子供の育成
～みんなでプラス1～

2 研究主題設定の趣旨

昨年度は、県小学校教育研究会図画工作科の研究推進校として、研究主題を「造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう子供の育成～わたしもプラス1～」とし、『夢中になり材に没頭する子供』を目指して実践を重ねてきた。今年度も、子供がわくわくする材と触れ合い、友達や材との関わりから、自他のよさを認め合い、つくりだす喜びを味わえる子供の育成を目指し、研修を進めていく。

昨年度は、「表現の始まり」の中で材料や技法と触れ合う時間を設けたり、個々のイメージを広げる体験やワークシートを工夫したりすることで、子供たちが安心して学習に臨み、造形的な見方や考え方を膨らませることができた。また、そこから得た思いや願いを確かなものにする中で、「表現の過程」では友達との関わりや鑑賞の場がさらに創作活動の広がり生きてくることも分かった。そして、「自分ももっとやってみたい」「友達と一緒にやってみたい」と意欲を増し、様々な技法や表現を試して、楽しんでつくりだす子供の姿へとつながっていった。また、「プラス1」することのよさを実感できる自己評価や他者評価を取り入れることで、自信をもって前向きに取り組む子供が増えてきた。

そこで、今年度は研究主題を「造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう子供の育成～みんなでプラス1～」とする。昨年度の副題「わたしもプラス1」から今年度は「みんなでプラス1」とし、個の学びをみんなの学びに、そしてみんなの学びを個の学びに前向きに生かすことができるよう、焦点を当てて研修に取り組んでいく。

まずは、昨年度からの造形遊びの体験を生かしながら、「作品を完成させることを目標」とするのではなく、材と触れ合う中で「こんなものをつくりたい！ひらめいた！」という経験を重ねていく。作品をつくり上げることを目指すのではなく、製作途中の一人一人の気付きや思いを大切にしてい、自分の成長や変容を実感できるようにする。そして、つくりだす喜びを感じ、自信をもって取り組めるようにする。

また、製作途中の個の思いや願いに目を向け、つくりだそうと追究する姿そのものを捉えていく。作品の完成型だけを見るのではなく、製作途中の友達の思いや願い、取組に興味をもって関わろうとする子供の姿を期待したい。そのような経験を重ねることで、友達の強い思いに魅力を感じ、刺激され、自分の学びに生かしていくと考える。

さらに、今年度は「個で製作」だけでなく、「共同してつくりだす活動」も取り入れていきたい。一人一人の個の学びが協働的な学びによってさらに磨かれ、「みんなでプラス1」できる。楽しんでつくり、関わり、またみんなで没頭する子供の姿を大切にしていきたい。そして、その学びを、図画工作科だけでなく、他の教科や活動でも生かすことができればと考える。

3 研究の内容と視点

視点1 表現の始まり

- ① ものとの関わり
 - ア 題材提示
 - イ 材料や用具、場所
- ② 人や自分との関わり
 - ア 友達との自然な関わりを生み出す場
 - イ 地域の人、プロの人と関わる場

視点2 表現の過程

- ① ものとの関わり
 - ア 動線を考えた各コーナーの配置
 - イ 効果的な表し方につなげるための学習時間や活動場所の保障（例：お試タイム）
 - ウ 見付けた技法や製作途中の思いの紹介や共有
- ② 人や自分との関わり
 - ア 鑑賞の場のもち方
 - イ 言語活動の充実

視点3 指導と評価

- ① 子供の評価
 - ア 自己評価・他者評価
 - イ ICT機器の活用
- ② 教師の指導に生きる評価
 - ア 子供のもつ造形的なよさや可能性の見取り

その他

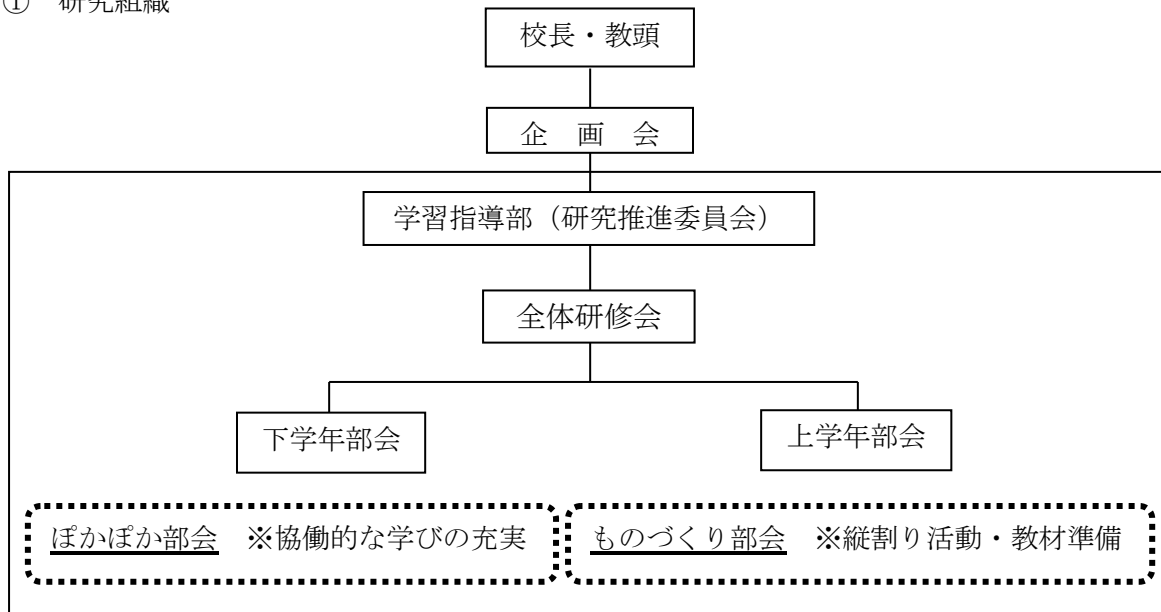
- ① ぼかぼかタイム（友達らしさを見付ける、受け止める活動）を学級で取り入れる。
 - ・グループであたたかい気持ちで聞く活動⇒話した子供がよかったことやうれしいことがあると周りの子供もあたたかくなる。
 - ・学級で受け止める言葉を財産にしていく。
- ② 工作タイム（異学年交流：東部っ子タイム）を取り入れる。
 - ・東部っ子タイムを12：45～13：15までとして、縦割り造形遊びをする。
 - ・最初は、ものづくり検討部会で企画提案をしていく。
 - ・2学期からは、材料コーナーを設置し、自分たちで自分のくらしを創作活動で豊かにするような活動を取り入れていく。
- ③ 新教材の教材研究【実技研】

教材会社の協力を得て、新しい教材の教材研究を行う。「ボールペン」を使った教材等、馴染みのない教材に触れ、子供たちがどのように教材に出会い、何を獲得していくのかを明らかにしていく。
- ④ 本物との出会い

富山県美術館や福光美術館、金沢21世紀美術館等、近くの美術館を訪れる機会を設ける。また、地域の芸術家猪飼正氏や金沢美術工芸大学の学生さんとの交流「アートでコラボ」等を通して、本物と触れ合う機会を大切にしていく。

4 方法

① 研究組織



② 進め方

- ・研究推進委員は、校長・教頭の助言を受けて、研修の方向・内容・計画等について立案し、校内研修の推進に努める。
- ・全体研修では、研修内容や方法等について共通理解を図り、実践について協議し、研修成果の共有化を図る。
- ・研修のまとめとして、授業実践を実践事例集として紙面にまとめる。
- ・授業研究は、上学年と下学年の2つの部会に分ける。
- ・授業研究は、1年の間に、各学年1回する。
- ・さらに、子供が造形的な見方・考え方を含め、つくりだす喜びを味わう土台づくりのために、ぽかぽか部会とものづくり部会の2部会を設定する。
- ・ぽかぽか部会は、協働的な学びをより充実できるように、様々な形態の話合いを紹介したり、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を推進したりし、友達のよさや思い、願いに関わるようにサポートする。
- ・ものづくり部会では、縦割り活動での造形遊びの企画運営や用具をそろえたり使いやすくするための工夫をしたりすることなど、子供が実際につくる前の下準備を行う部会とする。そして、2学期から縦割り班で自分たちで造形遊びを進められるようにサポートしていく。
- ・「立ち話研修」「美術館や工房の見学」「ゲストティーチャーに学ぶ研修」等、限られた時間の中で研修が深まるようにする。
- ・事前研修と事後研修を行う。全体研修会以外は2部会に分けて行う。できる限り、他部会の授業も参観できるようにする。
- ・事後研修では、成果と課題を視点に沿って明らかにする。